



赤こりレポート 丸柱 真優佳リポーター



地域のつながりぎゅーっと詰まったお店発見

近江八幡図書館の近くにある「発酵キッチン和ちゃ」は、地元野菜などを使ったおいしいお食事はもちろん、眠っている食材を生活困窮者などに提供する「フードバンクびわ湖」とも連携されています。春に突然訪れたコロナ禍による休校で学校給食の食材が余った時には、必要な人に食材を届ける近江八幡の拠点にもなっていました。他にも、地域の人が打ったお蕎麦を食べられる日や包丁研ぎの日もあり、地域のたくさんのつながりがぎゅーっと詰まった居場所になっています。(食品の寄付についての問い合わせは「フードバンクびわ湖」TEL 090-2017-6822へ)

赤こりレポート 馬場利男リポーター



「おまえ、すごい採れたな」

秋晴れの下、島小学校と島学区まちづくり協議会の共催で、1年生は生活科、5年生は理科の授業として水生生物観察体験活動が行われました。郷土の川への関心を深め、河川愛護思想の普及啓発を図ることを目的とするもので、1年生は小学校沿いの川に入って、琵琶湖博物館主任学芸員の金尾滋史さんの指導で、網の使い方や採れた生き物を怖がることなく手にとる方法などを学習。採取した生き物を全て教室に持ち帰り、金尾さんから生き物の正式な名前や特徴を聞きながら、さらに学習を深めていました。

9月15日



YMCAの善意が帰宅困難者の大きな安心に

大地震など大規模災害発生の際に近江八幡駅北部の帰宅困難者の混乱を解消するための一時滞在施設として、鷹飼町の滋賀YMCA本部会館を提供いただけることとなり、一般財団法人滋賀YMCAと市との間で協定を締結しました。県立男女共同参画センターとの間でも平成31年に協定を結んでおり、一時滞在施設としては2カ所目。調印式で滋賀YMCA総主事の久保田展史さんは「YMCAの活動の柱の一つである社会貢献活動の一環で提案させていただきお役に立てることができうれしい」と話していました。

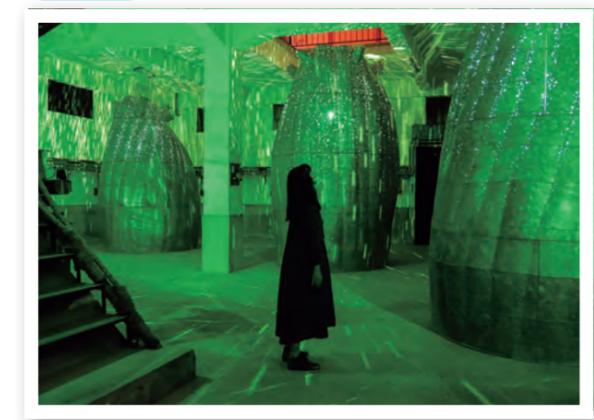
赤こりレポート 東 恵子リポーター



いかだ作りとレースにクラスが丸

桐原小学校6年生76人が沖島町の宮ヶ浜でいかだ作り挑戦しました。コロナ禍により修学旅行が中止となる中で「地元で思い出に残る体験学習を」と実施されました。インストラクターの指導のもと、クラスごとに、角材をひもで結び合わせエアフロントと呼ばれる大きな浮きやクラスごとにデザインした学級旗をとりつけ、レースも行いました。当日教わったばかりのパドルの漕ぎ方でしたがみんな上手に漕ぐことができました。1組の際田瑠生さんは「ドキドキしたけど、楽しかった」と話していました。

10月10日



60組のキラメキ踊る20年目のピエンナーレ

国内外のアーティスト約60組の作品が展示される国際芸術祭「BIWAKO ピエンナーレ 2020」が本市の旧市街地の10会場と彦根市の8会場で開催中です。今回のテーマは「森羅万象～COSMIC DANCE」。すべての存在は人類を含め宇宙の一員であり地球を舞台に踊るダンスの共演者という意味が込められています。メイン会場のまちや倶楽部(仲屋町中)では、高さ約3mにおよぶバオバブの鉄製彫刻作品の表面に開けられた無数の穴から漏れる光が、会場を幻想的な雰囲気包んでいました。11月23日(祝)まで。水曜休場。詳しくは事務局 TEL (26) 5832へ。

10月8日



琵琶湖の恵みに感謝しよし笛を演奏

創立10周年を機に「私たちに生きがいを与えてくれた琵琶湖の恵みに感謝を」と昨年12月から琵琶湖周辺の琵琶湖周航歌碑前で演奏を行っている滋賀県レイカディア大学米原校のOBによるよし笛サークル「よし笛アンサンブル マイレイカ」。23人のメンバーが、本市に集合、あいにくの雨天の下、「琵琶湖周航の歌」や「瀬戸の花嫁」などを長命寺の歌碑前や円山町の水郷めぐり船乗り場などで演奏、澄んだ音色を湖面に響かせていました。

9月30日



営農組合などの協力で秋の実りを実感

岡山小学校の5年生104人が農事組合法人加茂営農組合やJAなどの協力のもと、稲刈り体験を小学校近くの加茂町の田んぼで行いました。コロナ禍の影響で児童らは田植えの体験はできなかったものの、これまで稲の成長を熱心に観察してきました。秋晴れの下で営農組合理事の中村治一さんのクイズ形式の講話で稲刈りや脱穀の歴史を学んだ後、たわわに実った稲を一株ずつ鎌で刈ったり刈った稲の束のくくり方を学んだりして秋の実りを実感していました。

10月1日



左義長ダシの迫力を「五感」で楽しんで

天下の奇祭「左義長まつり」を1年を通じPRする新町二丁目の「文化伝承館」に、来年の干支「丑」のダシ飾りが早くも配置され、今年の「子」のダシと仲良く鎮座し観光客をお迎えしています。本来は旧伴家住宅に展示されるものですが、国際芸術祭BIWAKOピエンナーレ2020の会場となっている関係で、「仮住まい」中です。「目線と同じ高さで、ダシの迫力を「五感」で楽しんでもらえれば」と近江八幡左義長保存会会長の中嶋勝行さんは話しています。展示は11月末まで。月曜休館。